

第6回 四国の生コン技術力活性化委員会議事録

J C I 四国支部

1. 日 時 平成 25 年 12 月 21 日 (土) 14 時 00 分 ~ 17 時 00 分
2. 場 所 香川県生コンクリート工業組合 会議室 (高松市茜町 28-40)
3. 出席者 島 弘, 船越 孝浩, 古田 満広, 柳谷 健三, 平井 一夫, 新迫 東洋男
宮下 幹夫, 渡部 善弘, 坂本 久史, 井上 進作, 原田 隆敏
(オブザーバー) 小原 博保, 新居 宏美
13 名

4. 議 事

(1) 第5回委員会議事録の確認について (資料6 - 1)

第5回委員会議事録(案)が確認され, JCI 四国支部のホームページに掲載することが承認された。

(2) 各グループの実験結果最終報告(論文提出)について

香川を除く各グループより実験結果について最終報告があった。コメント等は以下のとおり。

高知グループ (資料6 - 4)

テーマ(論文名); 内部振動機による締固めがコンクリートの耐凍害性に及ぼす影響

- ・ 図3 ~ 図6の供試体下側の相対動弾性係数に着目すると, FA コンクリートのほうが大きい。要因としてフライアッシュを混入することで粘性が増し, エントレインドエアの移動が少なかったのではと推察される。このことを確認するため, 供試体の上側と下側のコンクリート密度をそれぞれ併記してはどうか。
- ・ シリーズ3のスランブ 18cm では, 下側の供試体の相対動弾性係数の低下率が低い。18cm のほうが 8cm に比べ空気が移動しやすいように思われるが, 異なる結果になった。要因として内部振動機の振動時間の違いが考えられる。本実験では振動時間は空気量の低下度合いにより決定しているため, 18cm のコンクリートは 8cm と比べ短い。例えば, 8cm のシリーズ1の振動時間は, 1-2 が 12 秒, 1-3 が 20 秒, 18cm のシリーズ3では, 3-2 が 5 秒, 3-3 が 10 秒である。そのことを表 - 4 に併記し, 考察してはどうか。
- ・ 図 - 1, 2 の粘性係数は削除する。
- ・ 図の番号, 表中の数字等に誤植があるので, 再確認する。
- ・ 図 - 15 の線引きを, それぞれの結果を結ぶよう見直す。
- ・ 「まとめ」についての記述方法を以下のとおりとする。他の論文についても同じように修正する。

記述例) 本実験により以下の結論を得た。(1)・・・ (2)・・・

愛媛グループ (資料6 - 3)

テーマ(論文名)；養生条件および養生温度の違いによる強度発現の変化

- ・ 図 - 3 の 50S-50S の材齢 91 日が材齢 28 日より強度が低くなっている。考察が必要である。
- ・ 島委員長の指導により図の見直しを行う。
- ・ 4.3 の最下段 2 行「また、50 については・・・実験方法の再検討が必要である。」を削除する。

徳島グループ (資料6 - 2)

テーマ(論文名)；トラックアジテータの洗浄によって生じる液状化したモルタルの使用

- ・ 付着モルタル量の実験を行い、その結果を追記(表 - 1)した。
- ・ 図 - 1 について解説が必要である。
- ・ 付着モルタルの容積の求め方が、本記述では理解しにくい。Kg 表示か、L 表示のどちらかに統一しては。
- ・ 3.の最下段 2 行については、持ち帰り再確認する。

香川グループ (資料なし)

テーマ；実機ミキサと試し練りミキサの性能比較試験

古田幹事長より、「論文として纏められていない。申し訳ございません。年末年始に作成します。」との報告があった。

各グループの最終報告について検討した結果、論文最終版をワードで島委員長に送付し添削をお願いする。その後、1月14日までに年次大会への投稿を行うことになった。

(3)「生コンセミナー in 香川」での発表について(資料6 - 5)

- ・ 古田幹事長より、「生コンセミナー in 香川」のプログラムについて説明があった。
- ・ 島委員長より、「生コンセミナー in 香川」を本委員会の成果報告会とするので、それぞれ発表するよう要請があり、承認された。
- ・ 本委員会の成果物として報告書を作成する。単独では冊子が薄いので、香川高専の水越先生が委員長である研究委員会との合同冊子とする。
- ・ 報告書の内容は、「論文+付録(生データ、実験状況写真等)」とする。写真等の貼り付けは、原則としてA4に2段4行の計8枚とする。
- ・ 報告書の原稿提出先は、古田幹事長とし、提出期限は1月31日とする。
- ・ 報告会に使用するパワーポイントを作成する。1題15分なので20枚程度を目安とする。

(4)本委員会の今後の活動について

本委員会の活動は本年度で終了する。各委員より本委員会活動に参加した感想が述べられた。主な発言は以下のとおり。

- ・ 特定の工場が実験を行うことになるので、大変苦労した。
- ・ 他県の技術者と交流ができ、大変有意義な委員会であった。
- ・ 先生の指導を受けることができ、技術力向上に役立つ委員会であった。

以上の意見を踏まえ、島委員長より来年度以降も継続する方針が示された。また、委員が所属する事業所の理解が得られ委員会活動にスムーズに参加できるようにするための対応はできるだけ行う旨の発言があった。

(5) その他

島委員長より各論文の謝辞において、本委員会での活動である旨を記述してはとの提案があり、承認された。

最後に、島委員長より2年間の委員会活動の総括と謝辞が述べられた。

配付資料

- 資料6 - 0 第6回委員会議事次、第6回委員会出席者名簿
- 資料6 - 1 第5回委員会議事録(案)
- 資料6 - 2 【徳島グループ】(論文)トラックアジテータの洗浄によって生じる液状化したモルタルの使用
- 資料6 - 3 【愛媛グループ】(論文)養生条件および養生温度の違いによる強度発現の変化
- 資料6 - 4 【高知グループ】(論文) 内部振動機による締固めがコンクリートの耐凍害性に及ぼす影響
- 資料6 - 5 「生コンセミナー in 香川」開催案内文書(案)
- 資料6 - 6 【参考文献】「第303回コンクリートセミナー」開催案内文書

以上

(記録者; 古田 満広)